

キウイフルーツ花腐細菌病の総合防除法						
〔要約〕 <u>キウイフルーツ</u> <u>花腐細菌病</u> に対して、 <u>環状はく皮</u> （10mm）の効果が高いが果実生育に影響するので、 <u>薬剤散布</u> と組み合わせた <u>環状はく皮</u> （5mm）が実用性が高い。						
長崎県果樹試験場・病害虫科	専 門	作物病害	対 象	果樹類	分類	指 導
平成4年度長崎県果樹試験場業務報告 平成4年度病害虫総合制御技術推進特別対策事業成績書						

〔背景・ねらい〕

キウイフルーツ花腐細菌病に感染した花は、褐変して落弁するものが多く、果実は曲玉状の奇形果になり、栽培上問題となっている。多発時は薬剤散布だけでは防除が困難であるため総合防除法の確立が急務である。

そこで薬剤散布、薬剤散布＋環状はく皮（5mm）、環状はく皮（5mm、10mm）、バンド締め
の防除効果を検討する。

〔成果の内容・特徴〕

①防除効果は雨よけ、環状はく皮、薬剤散布＋環状はく皮が効果が高く、バンド締めは効果が低い。

②環状はく皮幅（5mm、10mm）の違いによる発病程度の格差はみられない。

〔成果の活用面・留意点〕

散布薬剤は保護殺菌剤なので、散布時期が遅れると防除効果がないので留意する。

環状はく皮は果実肥大に影響するので、開花3週間前に行う。

[具体的データ]

表1 キウイフルーツ花腐細菌病に対する防除効果 (果樹試験場)

試験区	処理時期				発病花率 (%)
	発芽前 (4.3)	展葉期 (4.21)	花蕾肥大期 (4.30)	開花前 (5.14)	
薬剤散布	コサイト ^z	アグレプト ^y	カスミン ^x	アグレプト ^y	9.8
薬剤散布 + 環状はく皮	コサイト ^z		5mmはく皮		1.1
環状はく皮			10mmはく皮		0.0
無処理					18.2

^z コサイドボルドー 1,000倍
^y アグレプト水和剤 1,000倍
^x カスミン液剤 400倍

表2 キウイフルーツ花腐細菌病に対する防除効果 (病害虫防除所)

試験区	処理時期						発病花率 (%)
	休眠期 (3.12)	発芽前 (3.30)	展葉期 (4.23)	花蕾肥大期 (4.30)	開花前 (5.14)	開花後 (5.27)	
雨よけ被覆	○	—————				○	3.8
環状はく皮				5mmはく皮			4.4
環状はく皮				10mmはく皮			5.7
バンド締め				○	—————	○	22.0
薬剤散布	コサイト ^z		アグリマイシン ^y		アグレプト ^x		27.7
無処理							21.1

^z コサイドボルドー 1,000倍
^y アグリマイシン100水和剤 1,000倍
^x アグレプト水和剤 1,000倍

[その他]

研究課題名：キウイフルーツ花腐細菌病総合防除の確立試験

予算区分：県単

研究期間：平成4年度 (平成4～5年)

研究担当者：古賀敬一、大久保直雄

発表論文等：なし

残された問題点：多発生条件下での再試験が必要である。